


調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和元年11月7日


志摩市議会議長 様		報告者	会派名 大秀会 議員氏名 大口 秀和	
年月日	令和元年10月9日(水)			
時間	午後1時15分 ~ 午後2時45分			
参加者氏名	大口 秀和 (他会派と合同研修)			
用務先	住所	青森県むつ市中央一丁目8番1号 ほか		
	名称	むつ市役所企画政策部市民連携課・ジオパーク推進課 ほか		
目的・内容	<p>目的：COC+と下北ジオパークの取り組みを学ぶ。</p> <p>内容：「地(知)の拠点大学による地方創成推進事業(COC+)」について、その事業内容と市の関わり方及びその成果について、及びジオパークを活かした地域活性化への取り組みについてレクチャーを受ける。</p>			
成果・所感	<p>文部科学省HPで「COC+」とは「地域のニーズと大学のシーズをマッチングさせ地域活性化に取り組む事業」と大きく定義しています。むつ市では青森県、青森市、弘前市、八戸市、むつ市と青森中央大学他8つの大学等121機関で「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」と位置付け、地元大学生、地元高校生の地域内就職と起業を支援していました。その内容は県内での就職支援、起業支援、人材育成、大学発新産業での雇用創出など、わが志摩市がその取り組み例として大いに参考にすべきものが多彩にありました。</p> <p>レクチャーの中では、むつ市のこの事業への取り組み事例と成果を年度別に示され、年を追うごとに確実に若者の県内定着率・市内定着率が上がっていることを資料を基に説明され、その成果に納得をさせられました。人口減少・地元経済の振興を期するためには、志摩市でもこの事業概要を市として真剣に観測・研究して、小手先ではないしっかりとした政策で、地域内雇用・地域内起業支援による若者の市内定着率と経済振興を図るべきと思いました。本当に参考になるものでした。</p> <p>またジオパークについては、改めてジオパークのジオ(大地)・エコ(自然)・ヒ</p>			

ト（生活・文化）のつながりを学び、楽しむことができる場所との説明を受け、下北には恐山、仏が浦、大間崎、尻屋崎などの本土北限のジオサイトがあり、これらを守ることはもちろんジオ資源の価値を伝え学ぶことの大切さと、加えてここを観光拠点にしての活用に言及され、景観はもとよりジオと観光客誘致の大切さを聞きました。また職員のジオパークへの思いも強く、いただいた名刺には地元でとれる琥珀の細粒がほどこされ否が応でも見つめなおし、その住所に感心を持たされるものでした。その地域を思う作りこみに多いに感心するものでした。わが志摩市でも多いにこの職員のように市のセールスマンを目指してほしいものです。

余談ですが、その名刺を基に以前私が使っていた志摩市の伊勢海老名刺、安乗ふぐ名刺、アワビ名刺の話と地産への思いを語らせていただきました。後日、市民連携課長からぜひとも参考にしたいのでそれらの名刺をいただきたいと要望があり、十和田市へ送らせていただきました。むつ市職員の「COC+」・ジオパークへの思いと熱意には大いに感心させられました。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和元年11月7日


志摩市議会議長 様	報告者	会派名 大秀会 議員氏名 大口 秀和	
年月日	令和元年10月10日(木)		
時間	午後1時15分 ~ 午後2時45分		
参加者氏名	大口 秀和 (他会派と合同研修)		
用務先	住所	青森県十和田市西十二番町6-1	
	名称	十和田市役所 とわだ産品販売戦略課	
目的・内容	<p>目的：十和田産品販売戦略事業を学ぶ</p> <p>内容：生産量日本一を誇るニンニクをはじめとした一次産業が盛んであり、その販売に力を入れている。とわだ産品販売戦略課を設置し、農畜産物のブランド化を図りながら、生産や販売、流通にまで結び付け、地産地消と併せて販路拡大することで、農家の所得向上と持続可能な農畜水産業の振興を図る目的として取り組んでいるその手法についてレクチャーを受ける。</p>		
成果・所感	<p>まず初めに課員の方から、資料を基に十和田市の農産物販売での課題として、農業人口の減少、加工と販売流通戦略の弱さ、生産量と品質に見合った知名度の少なさ、PR戦略の弱さが説明され、それを克服するために現在実行している十和田市としての販売戦略の説明を受けました。また、課員の方は地域への誇りを強く持っている方で、十和田農産畜産水産物の強みを熱く熱く語られました。それから行政として十和田市農畜産品の強みを生かした販売促進を目的に、平成29年度から令和8年度までの十和田農畜産物等総合販売推進方針が策定されたお話を聞きました。方針では目的達成のため5つの事業が策定されていました。1に農業振興事業、2にとわだ産品推進戦略事業、3に地域内連携による6次産業化への支援、4に十和田ブランド定着事業、そして5にとわだ産品情報発信事業。そしてそれぞれの事業項目ごとに趣旨、事業内容、事業目標、事業成果などが細かく設定されていて、確実にこなしていく中で成果が見えているとのことでした。確かに有効的な取り組みと実感できました。これを参考にすれば志摩市にも大いに役立ちそうな気がしました。</p>		

また、説明終了後の質疑応答の中、説明された課員の方は、十和田にんにくの旨さと品質について、この旨さと品質の良さは土壌にあるのだと力説され、十和田の黒い土でできている農地の地政学的由来やそれを利用した作物のこと、ここだけのこの農地だから十和田にんにくは大きくてうまいんだと、目を輝かせて話されたことがとても印象的でした。地元をよく知り、地元に強い誇りを持っているこんな職員が、本当の町おこしの立役者なのだなどと改めて思い知らされました。

もし参考にでもなればと思い、この「とわだ産品推進戦略事業について～販売促進の取組み概要～」を本報告書に添付しておきます。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

令和元年11月7日

志摩市議会議長様	報告者	会派名 大秀会 議員氏名 大口 秀和 
年月日	令和元年10月11日(金)	
時間	午前10時30分～正午	
参加者氏名	大口 秀和 (他会派と合同研修)	
用務先	住所	岩手県久慈市川崎町1番1号
	名称	久慈市役所 農政課 林業水産課
目的・内容	目的：北限の海女の状況と地域活性化への活用を学ぶ。 内容：北限の海女の現状と今後の課題及び海女を活用した地域活性化への取り組みについてレクチャーを受ける。	
成果・所感	初めにいわて久慈「海女のふるさと会」会長の大沢俊光氏から、久慈市無形民俗文化財「久慈の海女漁の技術」の講演を1時間ほど受けました。お話の中では日本に存在する海女従事者の沿革から始まり、その発祥、道具の変遷、スタイルの変遷、歴史に見る海女の存在など流暢にお話を続けられました。中では、日ごろ我々志摩市の漁民や海辺の市民が海女に関心を持っている事や既知に重なる話が多く出てきましたが、お話の中で私たち志摩人の持つ志摩の海女像と久慈市の海女像の違いが見えてきました。私たちの知る海女は素潜りでの作業が主体でアワビ、サザエ等の採捕がメインですが、ここ久慈の海女さんは素潜りでの獲物採捕はもちろんです。海水に腰まで入った採捕が主流で、メインの獲物はウニとのことでした。また、具体的に視察時点での久慈市の海女の従事者は40名で、観光海女は6名とのことでした。平成25年4月に朝のドラマ番組で「あまちゃん」が放映され、この番組が好評を博したこと、そしてその舞台が久慈市であったことからいちやく久慈市に注目が集まり、そのドラマの中での主人公の口癖「じゃじゃ」の合言葉とともに、ロケ地探索、海女に会いたいという事で、平成25年に久慈市を訪れた観光客は165万人に上ったそうです。また、久慈市にある小袖海女センターに	

は 20 万 3104 人が訪れこの数は前年度比 40 倍だったそうです。その後は減少し、平成 30 年度は 113 万 5 千人が訪れたそうです。久慈市ではこれをきっかけに海女を利用した取り組みとして、ちびっこあまちゃん隊や地元高校生アイドル「あまくらぶ」などの若者子どもによる活動が始まったり、小袖地区の海岸通りを「あまちゃん街道」と名付けたり、「あまちゃん」ロケ地マップを作成したり、北三陸あまちゃん観光協議会を立ち上げ、メディアプロモーション部会での撮影誘致、受け入れ態勢の整備や、誘客宣伝部会での観光客の誘致・旅行商品の開発・ロケ地としての宣伝等にいそしんでいるとのことでした。一つの番組や映画のロケ地となった話題性や、選ばれた自然風景や文化を前面に押し出して観光客の誘致に、激を飛ばす関係者に大いに感心しました。わが志摩市でもこれまでの映画撮影を掘り起したりして大いに宣伝するべきです。ゴジラ登場の海岸、「君の名」の撮影地大王、安寿と厨子王の切ない親子愛を描いた映画「山椒太夫」撮影地 越賀阿津利浜等々はじめ沢山あります。また、何といても世界の耳目を集めた平成 28 年の伊勢志摩サミットの開催地である強みを前面に押し出して、誘客インバウンドのポストサミット事業を確実に完遂するべきだと思います。ポストサミットとしての事業があるにはあるが、少し細身の事業としか見えないし少し心もとない気がします。これは私が思うだけでしょうか。ポストサミットの事業はいろいろあります。各国の首脳が歩いた道、泳いだ海岸、警備に方々が立ち寄ったり、馴染みとして利用した飲食店等々、また市民が自主的に歓迎の姿勢を見せて称賛を浴びた行事や取り組みなど、これらを再発見再構築して戦略を練れば、これまで以上の観光客誘致やインバウンドにつなげる要素はまだまだあると思います。

少ない人数の海女さんにもかかわらず、一つのロケを起点として観光海女の創設、番組ロケ地の拡散などへの取り組み、今我々が学ぶのはこの久慈市のしたたかさです。